

こんにちはコミュニティ Community



CONTENTS

- 02 令和6年度 総会・研修会
- 03 コミュニティ活動功労者表彰
- 06 コミュニティ研修会
- 07 いきいきコミュニティライフ・書籍紹介
- 08 お知らせ

Vol.
124
September
2024



栃木県生活文化スポーツ部中村部長 来賓祝辞



入内澤会長

令和6年度 栃木県コミュニティ協会 総会・コミュニティ研修会

2024.5.20（月）

栃木県総合文化センター 特別会議室



5月20日（月）に栃木県総合文化センター特別会議室において、令和6年度の総会・コミュニティ研修会を開催しました。総会では、令和5年度の事業報告及び収支決算報告と令和6年度の事業計画・収支予算が原案どおり承認されました。

総会で入内澤会長は、「安全で安心な明るく住みよい地域社会を実現していくためには、住民一人ひとりが地域の一員として『地域づくり』へ積極的に参加するコミュニティ活動の取組がますます重要になっていと感じています。引き続き、皆様の御理解と御協力を得ながら、コミュニティ活動がさらに地域にしっかりと根づき、地域のコミ

ュニティが積極的に円滑に推進されるよう支援に努めて参りたいと考えております。」と挨拶しました。

栃木県生活文化スポーツ部長の中村和史氏は祝辞の中で、「地域のニーズが複雑かつ多様化し、コミュニティ活動の重要性が増す中、社会の担い手の減少は地域におけるコミュニティ活動にも大きな影響を及ぼすものと憂慮しております。県では様々な世代の方がコミュニティ活動に参加し、活躍できる地域づくりを推進するため、今年度は新しい事業、地域の助け合い機能の強化に取り組む活動団体への助成制度を創設し、栃木県コミュニティ協会等の協力を得ながら事業を実施することといたしました。今後とも、各団体の皆様と一層の連携を図りながら、地域コミュニティの活性化に取り組んで参りたいと考えておりますので引き続きご理解、御協力を賜りますようお願いいたします。」と述べられました。

第6号議案では三橋 伸夫新会長が選任され、挨拶を述べました。（P5）

総会後のコミュニティ研修会では、NPO法人テダス事務局長の田畑昇悟氏をお招きし、「これからのコミュニティづくり」と題して御講演をいただき、

参加者のみなさんは、熱心に聞き入っていました。（P6）

さらに、同席上において、コミュニティ活動功労者の表彰も併せて行いました。この表彰は、多年にわたり住みよい地域社会実現のためにコミュニティづくりを推進し、成果をあげている団体・個人を讃えるとともに、将来にわたりその活躍が期待される個人・団体に対し活動を奨励するために実施しているものです。

今年度は、知事表彰は2団体・1名、協会長表彰は1団体・1名の皆様が受賞されました。



総会の様子

令和6年 コミュニティ活動功労者知事表彰 (活動内容・受賞コメント)

知事表彰



◆ 山口 寛昌 氏 (小山市あさひコミュニティ推進協議会)

2013年4月協議会が活動拠点である「小山市小山市城南市民交流センター」の指定管理者として運営を始めた際に、率先垂範を心がけ、新規雇用した職員への指導に当たったほか、初動体制を確率した貢献は高く評価されている。現組織は近隣の15自治会からなり会員数は約7,900戸。設立当初からの地域住民中心のコミュニティ活動と、センターを利用した新しい市民向け活動が噛み合ってきて、地理的な優位性もあり、住民からはその存在を非常に好意的に受け止められている。

特に当人が中心となって築いてきた自主講座は、約50団体が常時新規会員を受け入れることで「だれでも いつでも 一人でも」活動ができるシステムとして機能しており、利用者からの評価は高い。

また、ここ数年は子ども向け講座の拡大を提案し、読み聞かせや、燻製づくり、人形劇また、竹とんぼ等の親子で参加できる講座を増やすことなどによって多世代間の交流活動にも取り組んでいる。

山口 寛昌

(小山市あさひコミュニティ推進協議会)

過分な表彰に恐縮いたしております。当会は人口増加が続く地域の交流・融和を半世紀にわたって進めてきました。十数年前に始まった市民を対象とした交流センターの指定管理を通じて広がった交流の場を更に高いレベルに深化続けられればと願っております。

◆ 金田南部地区コミュニティ推進協議会 (大田原市)

昭和53年に栃木県及び大田原市からコミュニティ推進モデル地区の指定を受け、昭和54年4月9日に金田南部地区コミュニティ推進協議会が設立。

昭和57年4月には、活動拠点となるコミュニティセンターが完成。金田南部地区に強い関心と愛着を持ち、地域活動に参加協力し合うことで、温かい心が通う地域社会を築いていくことを目的としている。金田南部地区は、8つの自治会組織からなる地域であり、自治会、公民館、子ども会育成会がお互いに協力し合っており、コミュニティ活動を推進している。これまで、運動会、ソフトボール・バレーボール大会、料理講習会、カラオケ民謡大会など実施していたが、近年は、まつりや教養講座をメイン事業として、各種事業を展開している。

平成13年5月にはコミュニティ推進協議会を母体として、金田南部地区生涯学習推進協議会が設立されたことから、地域住民のふれあいの場の提供のほか、学習機会の提供にも力を入れている。

金田南部地区コミュニティ推進協議会 会長 熊田 雅勝

この度のコミュニティ活動功労者知事表彰ありがとうございました。高齢化等により地域のつながりが薄れていく中、当協議会の活動に地域住民が参加協力しあいながらコミュニティ活動を進めて参りましたが、今後も地域内住民が明るく過ごせる地域づくりに努めてまいりたいと考えております。



◆ 青木地区コミュニティ推進協議会 (那須塩原市)

青木地区の自治会と婦人部や子ども会育成会、小中学校 PTA などの地域団体で構成するコミュニティ組織で、地域内の諸課題に向けた活動を推進し、明るく住みよい安全な地域社会づくりを目指している。特に学校との関わりが深く、夏に行う盆踊り大会や秋の青木周蔵祭りにおいては、学校の協力のもと校庭を会場に開催している。

活動概要としては各行政地区自治会、青木小学校及びそれらの各関係団体との連絡調整、関係団体への活動助成、伝統行事等の開催、青木地区社会福祉協議会の事業推進など。地域への影響としては子ども達に伝統的な故郷の思い出となるよう、また地域住民との交流の場としての地域の伝統行事事業を開催することにより、地域の活性化及び一体感の醸成に寄与している。



青木地区コミュニティ推進協議会 会長 人見 忠夫

会長表彰の栄に浴し、感謝申し上げます。当コミュニティは地元の小学校が「小規模特認校」に指定されたのを機に、学校存続の機運が高まり、平成 26 年に結成いたしました。先行のコミュニティの取り組みを参考に、地域の一体感を高め、近隣からも人が集まることを目指し活動を続けております。

◆ 東那須野地区ふれあい推進協議会 (那須塩原市)

東那須野地区ふれあい推進協議会は明るく住みよい心の通い合う地域社会をつくり、伝統ある故郷の行事を守り、発展させることとともに、まつりを通じて郷土愛を育て、健全な青少年育成と産業の振興を図ることを目的に設立。

地域の様々な団体、関係機関と連携して、まちづくりに取り組んでいる。

夏の「盆踊り大会」、秋の「那須野巻狩まつり大将鍋出陣式」、冬の「東那須野花市」等、地域の年中行事を開催してきた。

令和 5 年度はコロナ禍で中止となったこれらのイベントを 4 年振りに開催。特に、行政主導による那須野巻狩まつりが開催中止となる中、民間主導による新たなまつりの開催に向けた試みとして、「那須野巻狩り大将鍋まつり」を開催した。地域の様々な団体との連携を図り、事業を進めることで、「誰もが健康で住みよい、明るく心の通い合う、安心安全なまちづくり」の推進に重要な役割を果たしている。

● コミュニティ活動で地域力アップを ● 那須塩原市 東那須野地区ふれあい推進協議会 会長 吉成 伸一

コロナ禍の経験をプラスに捉え、行事・お祭りを「人と人との繋がり・絆」を意識し活動をするようになりました。毎年、8 月 16 日開催の「盆踊り」を全世代の交流の場とするため小中学生からアイディアを募り「新たな盆踊り」を模索し開催しています。これからもコミュニティ活動で地域力アップを目指してまいります。

受賞された皆さま おめでとうございます！



栃木県コミュニティ協会会長就任にあたって 会長 三橋 伸夫

本年 6 月より新たに会長を務めます三橋です。就任にあたり一言御挨拶申し上げます。

私は宇都宮大学を定年で退職しました。専門は建築学で、現役の時から「計画への住民参加」を研究テーマとしており、コミュニティとは浅からぬ縁があります。協会とのつながりは平成 6 年度の研究委員会（その後研究推進委員会）からで以来 30 年経ちます。

コロナ禍後のコミュニティは多くの課題が山積しています。また、近年は孤独・孤立の問題が注目されます。こうした地域の問題に的確に対処すべく会員の皆様のお力添えのもと、微力ながら務めて参りたいと存じます。宜しくお願いいたします。



5 月 20 日

総会で新会長に三橋伸夫氏が就任されました。

令和 6 年 コミュニティ活動功労者会長表彰 (活動内容・受賞コメント)



◆ 神長 暉 氏 (塩谷町大宮地区コミュニティ推進協議会)

平成 22 年 4 月大宮地区区長会長を経て広報として役員に就任。平成 24 年 4 月監事に就任。平成 27 年 4 月会長に就任。令和 5 年 4 月顧問に就任。現在に至る。これまでの活動を継続しながらも、時代に即した事業変更を進める。町の介護予防教室（火曜サロン）を受託。「ふれあい盆踊り」から「大宮コミュニティまつり」と変更。「ひまわりのせいくらべ」事業を開始。「出前輪投げ大会」を各区公民館で開始する。

コミュニティ活動の推進について、会長自らが役員、参加者等の先頭に立ちながらリーダーシップを発揮しており、コミュニティ組織をまとめた。特に介護予防教室では毎週火曜に開催されているが、そのほとんどに参加しながら活動を見守っている。地域リーダーとして長年に渡り活躍し、会長退任後も顧問として各種活動に参加している。

神長 暉 (塩谷町大宮地区コミュニティ推進協議会)

今回の受賞にあたり、地域コミュニティ活動とともに協力、努力を続けている皆様に心から感謝を申し上げる次第です。今、地域社会は大きな転機を迫られ、地域コミュニティの果たす役割は今後も大きなものがあります。これからの新しい地域づくりに頑張りましょう。

私たちもコミュニティづくりに協力しています

『できる親切はみんなでしょう それが社会の習慣となるように』

「小さな親切」運動栃木県本部

代 表：黒本 淳之介
事務局：栃木銀行 経営企画部広報文化室
住 所：宇都宮市西 2 丁目 1 番 18 号
TEL：028-633-1241（代）



「これからのコミュニティづくり」



講師にNPO法人テダス 事務局長 田畑 昇悟氏をお迎えし、「地域コミュニティの活性化、後継者問題、コミュニティに求められる役割やこれからのコミュニティづくり」について御講演いただきました。

田畑氏プロフィール

1985年、兵庫県丹波市生まれ。学生起業でイベント会社を設立。その後、地域紙の記者を6年間。新聞社を退職後、ガーナでNGO活動に参加。帰国後、2014年にNPO法人テダス（NPO・市民活動を応援する京都の中間支援組織）に就職し、事務局長としてNPOの支援活動に従事。主な業務は「市民活動のよろず相談員」。ほか、「集落会議支援」「NPO向け教材の開発・販売」「集落の教科書の制作支援」などを担当。京都府内に南丹市と京辺市の二つの拠点で年間約1500件のよろず相談に応じている。



講演の内容（ポイント）

1. コミュニティの活性化とは（強いコミュニティとは）
2. 強いコミュニティになる10の習慣
3. 参画者を増やそう
4. 地域ルールに見える化
5. 自治会のよくある悩み

- 強いコミュニティとは・・・「動きたい時にすぐ動ける集団」
- お互いにできることを知っている・動き方を知っている
- ⇒ **何でもよいのでやってみることで、コミュニティ力は強くなる！**

- 強いコミュニティになる10の習慣
（新しい活動が生まれる地域には共通した習慣がある）

	GOOD（良い傾向）	BAD（よくない傾向）
①組織や会議の構成	有志	充て職や持ち回り
②話し合う機会	多い	少ない
③話し合いスキル	上手	下手
④情報共有	多い	少ない
⑤事務担当者	いる	いない
⑥事務局への評価	高く評価	低く評価
⑦報酬に対する認識	有りの人いる	無報酬が美德
⑧現状認識	できている	できていない
⑨伴走支援者	有り	無し
⑩外部資源の活用	なれている	なれていない

- 地域ルールとは、一定の範囲で共通認識され「能動的に更新される規範」
- 地域ルールに見える化をするとどうなる？
- ⇒ ・移住希望者の判断材料！（ミスマッチの防止）
- ・新住民が助かる！ ・関係人口が関わりやすい！ ・見直しが進む！

- 地域ルールは明文化されていない・更新されていないなどの場合も
- ⇒ **1年に一度ぐらい見直し（話し合い）を行う！**

（話し合う機会がありますか？ たくさんの人と話し合いができていますか？）

- ◆ 見直しの視点
 - ・今に合わないことや形骸化したものを改める
 - ・今ある課題にアプローチする
 - ・ほかでしている良いことをマネする
- ◆ 見直しの心構え
 - ・とりあえずやってみる勇気（決定までに時間をかけない）
 - ・だめなら元に戻す柔軟さ（上手くいっているフリをしない）

- 自治会のよくあるお悩みの1つに「役員の担い手不足・後継者不足」
- ⇒ 即効性のある薬はないが、じわじわ効く薬として
 - ・役員候補者を増やす（有志でいろいろやってみる地域になれば候補者が増える）
 - ・役務の見直し（減らす・効率化する・外注する）
 - ・・・その手法の1つとして、事務局を設置し、頭の役割（役員）と体の役割（事務局）を分けることも！



話し合いの作法

よい話し合いとは
「またしたいと思える話し合い」

* 条件（成功体験）

- ①誰も傷つかなかった
- ②具体的な変化や行動が生まれた

（参考）話し合いの作法 連載記事「集落会議のつくり方」『季刊地域』（発行：農文協）No52～55

集落の教科書

全国23の地域で
作成

「良いことも
そうでないことも
ちゃんと伝えたい」



（参考）NPO法人テダスホームページ
(<http://tedasu.com>)





連載 いきいきコミュニティライフ！⑩

「コミュニティをつなぐ活動」 文 / 安藤 正知

新型コロナウイルス感染症が5類に移行して1年以上が過ぎましたが、現在、第11波と言われる流行の最中にあるそうです。そんな中、各地域の自治会では行事の再開が進んでいます。私が役員を務める自治会でも、先月夏祭りを開催しました。あいにくの雨にもかかわらず、たくさんの親子が来場して下さり、「うちの地域にこんなに人いたっけ・・・？」と主催者がびっくりするほどでした。

コミュニティ組織の大切な役割に地域住民の親睦・交流が挙げられます。地域の皆さんにぜひ楽しんでいただこうと、事前の準備から当日の運営、そして後片付けまで裏方として多くの方々が尽力しています。新年度スタート時から準備は始まり、2カ月前に準備委員会を立ち上げ、テントの配置、椅子・テーブル、ステージ、電源の確保、臨時駐車場や警備の手配、出店者の調整、抽選会の準備と景品の用意・・・実にさまざまな懸案事項を一つずつクリアしていくわけですが、毎年の積み重ねがコロナで中断したために、一から始めないといけない事案もあったでしょう。

この地域で夏祭りがスタートしたのは30年前と聞きました。始めは来る人もそれほど多くなかったそうですが、今年の賑わいぶりをみると、すっかり定着したのだと実感できます。みんなの笑顔のために汗をながしている方々に本当に感謝ですね。

さて、「楽しさ」が求められるのは親睦交流イベントだけとは限りません。例えば、防災訓練、日ごろの備えが大切だと各地で実施されていますが、残念ながら参加者の固定化や減少に悩んでいるところも多いようです。今年も「自治会活動元気アップ研修会」を実施しますが、そのテーマは「みんなが楽しく参加できる防災訓練を考える」です。参加する人はもちろん、主催者側もやって良かった、と思える事業にアップデートしたい、という想いから研修会を企画しました。来年度の防災訓練に生かされるアイデアがでてくるといいなと願っています。

安藤 正知（あんどう まさともし）認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事長
秋田市出身。化学品会社に16年勤務後退職し、2003年より宇都宮市民活動サポートセンター勤務、2005年NPO法人宇都宮まちづくり市民工房設立に関わり、2019年理事長就任、市民主体のまちづくりを目指して調査研究、まちづくりの実践を行っている。2012年1月宇都宮市が開設した宇都宮市まちづくりセンターの指定管理者としてその管理運営に携わる。



つっちー おすすめ！



◆ 書籍紹介 ◆



『町内会…コミュニティからみる日本近代』
編著者・出版社等 玉野和志、筑摩書房（ちくま新書）

皆さんは、自分が所属している団体やさらにその業界の歴史をどれくらいご存じでしょうか。規模の大きな企業であれば社史の編纂があるかもしれません。地域によっては、その歴史を丁寧にひも解いており、県内各地で「〇〇地区の歴史」と冠した冊子や公民館での展示をいくつか見たことがあります。

それでは、当協会にかかわりのある人たちにとつて、とても身近な存在である自治会や町会の歴史はどうでしょうか。それを理解できるのが、今回紹介する書籍になります。

本書の紙幅の大半は、明治以降の町内会の歴史の解説によつて割かれています。単なる事実の羅列ではなく、国内外の社会学者の理論を基に考察され、町内会がその時々で重要な役割を果たしてきたことが理解できます。特に、町内会・自治会を「共同防衛」を目的とする「全戸加入原則」をもった地域住民組織」と定義し、本質的な目的である共同防衛を達成するために、全戸加入が必要であると解しています。現代の町内会において、防災の役割が重視されることにも通ずるものがあります。

一方で、どの時代においても、政治や行政と絶妙な距離感、すなわち関係性を保ち、ある時は権力にからめ取られ、またある時には権力に対する圧力団体として機能することになります。町内会を排除しようとした戦後のコミュニティ施策においては、皮肉なことに、町内会を中心とした都市の新しい統治形態が再確認されることになったと指摘しています。

正直なところ、やや難解な一冊です（私も読み進めるのに苦労しました）。しかしながら、日本近現代史の見識がある方はすらすらとページをめくることができると思えますし、自治会・町会に参加されている方にとつては、今取り組んでいる活動の意義を歴史的に裏打ちしてくれる一冊であるとも言えます。

土崎 雄祐（つちざき ゆうすけ）秋田県生まれ。これまでにNPO職員や大学職員として学生向け地域志向科目や市民向け講座のプログラム開発、自治体職員研修の企画立案支援などに従事。（一社）とちぎ市民研究会専務理事、認定宇都宮まちづくり市民工房常務理事。公職として、那須塩原市男女共同参画審議会会長など。

◆ 地域コミュニティ再生促進事業 (助成金)のご案内 ◆

当協会では、地域における多様なニーズや課題に対応する住民主体のコミュニティ活動を支援するため、地域活動推進組織・団体への助成を行っています。

助成対象となる活動の名称及び内容は、次の(1)～(7)のうち、新規事業(3年以内)もしくは既存事業のうち時宜を得た工夫を加えた事業(既存事業に時宜を得た工夫を加えてから3年以内)又は復活させた事業(3年以上休止していた事業を復活させてから3年以内)です。

- (1) 安全確保(交通安全・防犯・防災・消防・救急等)
- (2) 地域福祉(ボランティア活動・高齢者見守り等)
- (3) 青少年健全育成(非行防止等)
- (4) 情報提供(広報誌発行・ホームページ開設、SNSによる情報提供等)
- (5) 教育関係機関等との連携(学校・PTA・児童館・保育所・幼稚園・公民館等)
- (6) 環境保全(環境美化・緑化推進等)
- (7) 組織の基盤強化(先進事例視察、勉強会等)

詳しくは協会ホームページ(助成金情報)を御覧下さい。

<https://tochigi-community.jimdo.com/>

お知らせ



▼ 新規会員募集 ▼

当協会では、住みよい地域社会の実現のために、地域づくりに必要なリーダーの養成をはじめとする各種事業を行っています。

今後さらに事業の充実をはかるためには、協会の活動に賛同される企業、団体の皆様の御協力が必要です。協会の趣旨に御理解いただき、御加入をお願いいたします。

一般会員(3,000円)・賛助会員(10,000円)・個人賛助会員(2,000円)を随時募集しておりますので、詳細等につきましては、事務局までお問合せください。

▼ 会員代表者等の変更について ▼

代表者、または住所等の変更がありましたら、事務局まで随時御連絡ください。(FAX可)

よろしくお願いいたします。

私たちもコミュニティづくりに協力しています

NPO 法人とちぎ協働デザインリーグ

とちぎボランティアNPOセンター「ぽ・ぽ・ら」管理運営団体



みんなと育むまちづくりシンクタンク

〒320-0032 栃木県宇都宮市昭和2-2-7
とちぎボランティアNPOセンター「ぽ・ぽ・ら」メールボックス35
☎ 070-4288-7400 FAX 028-333-1343
e-mail: info@tochigi-todl.net HP: <https://www.tochigi-tcdl.net/>

表紙写真：NPO 法人かぬま市民活動サポーターズが管理しているかぬま市民活動広場(ふらっと)が1階に入っています。あらゆる世代の市民、ボランティア、NPO等の活動と相談の窓口、及び各団体間の協働及び交流を図り、市民自治及び協働によるまちづくりを推進する拠点として設立されました。市民活動に係わる、様々な機能や機器が備わった施設です。施設内には多目的会議室、談話コーナー、駄菓子のお店等もあり、活動する市民で賑わっています。ボランティアやNPOなどの活動

情報も提供しています。



■「コミュニティ通信」コーナーでは、各団体の活動やどのような想いで活動されているかを紹介させていただきます。会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

発行：栃木県コミュニティ協会

〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田1-1-20

栃木県生活文化スポーツ部

県民協働推進課内

TEL 028-623-2110 / FAX 028-623-2121